

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に添うようにサービス提供している。朝礼・職員会議により共有するようにしている	グループ全体の理念は事務所に掲示してあるほか、毎週月曜の朝礼の際に本部からの行事や連絡事項と共に共有するようにしています。特に残存能力を伸ばすことを大切に自分でできることは自分でするように見守り支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出、買い出し時に地域の方々との交流を図るようにしている ボランティアも呼んで交流しています	事業所として地域の一員としての取り組みの必要性を感じていますが自治会に未加入で地域とのつながりも十分に行われていません。民生委員を通じて自治会との接触を試みています。散歩や買い物ときなど挨拶をしたり交流を図るようにしています。職員の提案で和太鼓のボランティアに来てもらっています。	地域密着型施設として地域とのつながりは大切です。自治会に加入するなどともに事業所の特徴を生かした地域での役割など今後期待しています。各種のボランティアの受け入れ利用者が楽しめる活動を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との散歩、外出時に地域の方々との交流を図るようにしているが、あまり出来ない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で発案された事柄や意見等はサービスの向上に生かしている	運営推進会議は年4回、民生委員、地域包括センター職員、家族などが参加し、実施しています。地域包括センターの職員の助言で、地域の勉強会に参加し、いろいろな情報が得られ、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出を求められた際には、直接担当課に出向き、現状報告をおこなっている	生保の受給者が多いこともあり、担当の社会援護課は2か月ごとに来て、該当者と面談しています。介護保険室とは、事務的なことを中心に密接な連絡をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止をテーマに研修を行い職員の理解を深めている	職員を対象にした身体拘束廃止委員会を3か月毎に開いて、一般的な知識の習得の他に、スピーチロックなど日常のケアの中に拘束に繋がる事例がないかを職員同士で研修し意識の向上を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマに研修を行い職員の虐待に対する知識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解が不十分であるため活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を説明し利用者、ご家族に不安や疑問を残さないようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でご家族の意見や要望を聞く様にしている。	家族には面会時や運営推進会議に出席した際になるべく話しを聞くようにしていますが、家族からの意見はあまり聞くことが出来ていません。面会等に来ない家族も多くその情報収集には苦心しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員でユニット会議や職員会議等で情報共有を図っています。	ユニット会議や職員会議で、日常のケアを中心に意見交換をしています。その中で利用者に対するレクリエーションの一環として和太鼓を演奏するボランティアを呼ぶ話が出て実践に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は就業規則を定期的に見直し、職員が働きやすい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を行い、職員の技術・知識向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で安心して過ごしてもらえるように本人の気持ちを尊重するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面会時などにご家族から要望等を聞き良い関係が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供を基に必要としている支援を行うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることは参加していただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて様子をお伝えし、家族と相談しながら利用者の支援を考えていくようにする		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が友人等に手紙を投函したり、友人の来訪を受け入れるようにしている	利用者は県外からの入居者が多いため、地域とのつながりがなく、馴染みの店もないようです。利用者が友人に出す手紙の投函などを職員が援助して行うことで元の職場の友人が訪ねてきています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の為生活習慣、かちかんの違いにより意見がぶつかる事もあるが、利用者の間に職員が入り、あとまで心にわだかまりが残らない様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者やご家族からの相談は受け入れる様にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人一人の希望を聴き、一人一人の思いに応えられるように努力している	職員は日々の暮らしの中で利用者が話しやすい関係作りに努め、一人ひとりの思いや希望を把握しています。思いや意向を上手く伝えられない人には、家族から聞いたり日々の行動や表情から把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や情報提供を基に把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状態や変化を判断出来る様に利用者に関わりを持つようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、職員、ケアマネージャー、医療関係者と話し合い介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、職員、医療関係者で話し合い、計画作成担当者、ケアマネ(週1勤務)を中心に作成、1年間を振り返り3月～6月に見直しをしています。1階は2か月ごとに担当の職員がアセスメントを作成してケアマネのフォローしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送りノートを活用し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して臨機応変に対応出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行いグループホームへの理解を深めていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、利用者やご家族が不安なく過ごせるようにしている	利用者の受診は月2回協力医によって行っています。土、日以外は協力医が毎日来ているので、突然の体調不良に対しても相談、診療など対応してもらえるので利用者家族が不安なく過ごせています。歯科医も希望する人に対して週1回行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と訪問医と連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者との面会時などに病院関係者との情報交換や相談をするようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の希望をかなえられる様に終末期に向けた取り組みも考えていきたい	終末期の看取りについて、契約書で触れている面もありますが、現段階では、事業所として書類の面でも人的な体制でも十分には整っていません。これから事業所として前向きに取り組む方向で考えています。	終末期の看取りについて、契約書、同意書等の整備、その後の具体的な手順、それを受け入れる職員の研修など事業所としての具体的な受け入れ体制を整えることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練、研修への参加		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備し、地域との連携も図って行きたい	避難訓練は事業所独自で年2回行っています。今年度は火災を想定して行っています。利用者の避難誘導訓練で職員が2階から布団を使って利用者を避難させる訓練と利用者も一緒に水消火器を使った消火訓練を行っています。	今後色々な災害が想定されます。職員だけの誘導には限界があります。様々な災害に備えて消防署の協力を得ての避難訓練、避難経路の確認、消火器の正しい使い方などの訓練、また地域との連携を図ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にあわせた声かけ(話しかけ)、適切な対応を心掛けている	一人ひとりの誇りや人格を尊重し、また羞恥心に配慮して排泄も利用者の思いを大切におむつを使わず自立に向けた支援を行っています。利用者に対しても安心して過ごせるような言葉かけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が希望を表わせたり、決めれるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにあわせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや化粧品の購入、着たい服の希望を聞いて、おしゃれが出来る様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、配膳、片付けなどを利用者と一緒に協力しながら行っている	食事を作る所が良く見えるので利用者は時々覗きに行っ ては楽しみにしています。食べ終わった後のかたづけなど 利用者が進んで行っています。季節に合わせてそうめん流し、 恵方巻など行事食も取り入れています。外食は寿司など好みの ものが食べられるので利用者も楽しみにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察、記録し一人一人の必要とする量を確保するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。また訪問診療を行い、口腔内の状態についても注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを見計らいトイレ誘導を行うようにしている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を大切にしておむつ(夜間でも)を使わないトイレでの排泄支援を行っています。排泄チェック表は一目で把握できるように工夫して一人ひとりに合わせた支援を行い、パンツでの失敗も洗えば済む事と知らせ、手早く対処しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を行い、運動や水分補給で自然排便が出来る様に支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施している	入浴は週3回を基本に行っています。車椅子を使っている人に対しても職員2人で介助に当たり湯船でゆったり入れるように支援をしています。入浴を嫌がる人に対しては、言葉かけや対応する職員を変えるなど配慮しています。入浴を楽しめるように時々入浴剤なども使っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースで休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局と連携、相談をしながら、職員間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、拭きや洗濯物たたみ、裁縫や散歩など役割り、楽しみを見つける様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は天候を見ながら、なるべく毎日行うようにしている	天気の良い時には利用者の状態を見ながら近くの公園や事業所の周りを散歩するようにしています。誕生会のときは、皆で外食で好きなものを食べたり買い物を楽しんでいます。家族の協力でお墓参りや食事に出かけたりもしています。今後皆で少し遠くの公園に行く計画も考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、職員と一緒に買い物に行くときは、所持したり、支払ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは自由に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をし、季節感を感じられる様になっている	多くの時間を過ごす共用スペースは皆で囲めるテーブルやテレビコーナーにソファがゆったりとおかれています。利用者が食事を作っているところが見られる台所、全体的に落ち着いて過ごせる家庭的な空間になっています。壁面も書初めや紙で作った花など利用者の作品が飾られています。清掃も行き届き何処も清潔に保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを使用してもらったり、玄関に置いてあるベンチを利用してしてもらい居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の馴染みの物をしてもらい生活しやすくなるように支援している	入居時家族に利用者が普段使い慣れた物気に入った物(タオルや小物でも)や家具を用意してもらい、誕生日に祝ってもらったカードや書初めなども飾られています。用意のできない人に対しては、利用者が欲しいものを希望した際に記録しておいて、後日一緒に買うようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを建築物内部に多く設置し、安全に移動出来るように工夫している		